

# 13 本州中央部広域交流圏の形成について

## 長野県長野県の状況

【国土交通省】

### ● 本州中央部広域交流圏の形成

・長野県の地理的な優位性を発揮し、北陸・リニア中央の二つの新幹線と高速道路網を基軸とした高速交流ネットワークを最大限に活用する「本州中央部広域交流圏」を形成し、東日本と西日本、太平洋と日本海とを結ぶ大規模な流動の創出を目指している

#### 取組

#### ○ 中部横断・中部縦貫・三遠南信自動車道の整備促進

- ⇒沿線各県・市町村と共に期成同盟会で要請活動
- ⇒三遠南信道路建設促進期成同盟会（会長）

#### ○ 地域高規格道路の整備促進

- ⇒松本糸魚川連絡道路、上信自動車道（群馬県と連携）、伊那木曾連絡道路姥神峠道路（延伸）区間において、事業化に向けた調査を推進

#### ○ 直轄道路事業の整備促進と、国道、県道、市町村道の整備推進

- ⇒県総合5か年計画に整備予定箇所を掲載し広く周知

#### ○ リニア中央新幹線の整備効果を広く波及させるための構想を策定し、実現に向けた取組を推進

- ・「長野県リニア活用基本構想」策定（H26.3）
- ・「リニアバレー構想」策定（H28.2）
- ・「山梨・長野・岐阜三県リニアに関する共同研究会」（R1.6）

#### ○ リニア関連道路整備事業の推進

- ⇒リニア中央新幹線の整備効果を広く県内に波及させるため、関連道路整備を推進

#### ○ JR東海が進めるリニア建設工事に伴い、地元市町村では地域住民との調整や独自の環境影響調査等を実施

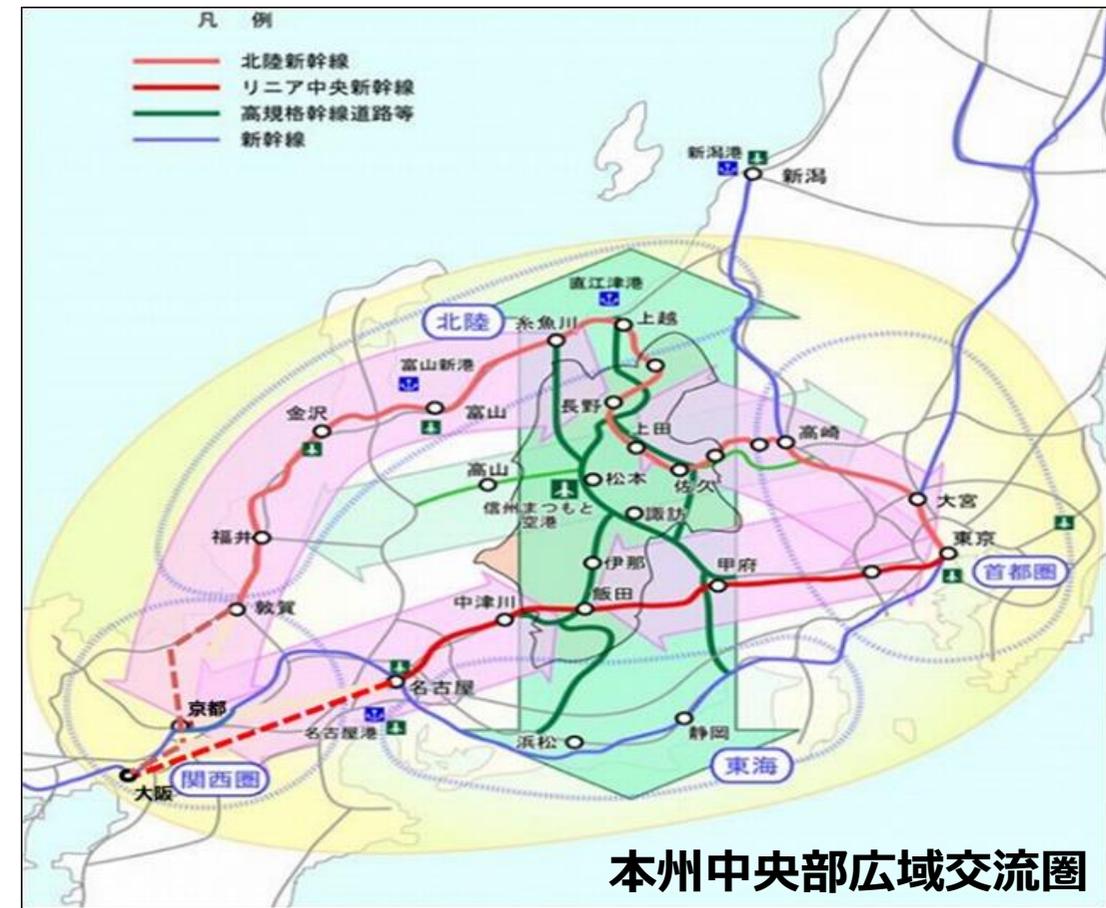
- （取組例）
- ・JR東海が行う工事や発生土置き場等に係る地元との調整業務
  - ・工事に伴う環境変化への対応業務（大気環境測定、地下水位調査等）

- 県管理道路改良率66.5%（38位）  
（全国平均73.9%）
- 市町村道改良率11.3%（42位）  
（全国平均18.6%）



## 課題

- **平常時・災害時を問わない安定的な輸送の確保が必要**  
令和2年7月豪雨では、法面崩落などに伴い主要な幹線道路の通行止めが多数発生
- **本州中央部広域交流圏の実現のため、高規格幹線道路のミッシングリンクの解消や、地域高規格道路の早期整備が必要**
- **高速交通網の整備効果を広く波及させる、国道、県道、市町村道の整備が不可欠**
- **リニア整備を国土の発展に活かすため、「スーパー・メガリージョン構想」の実現に向けた積極的な取組が不可欠**
- **リニア関連の基盤整備は、地元自治体の財政負担が過大**



## 提案・要望

### 1 中部横断・中部縦貫・三遠南信自動車道のミッシングリンク解消

本州中央部広域交流圏を形成する、高規格幹線道路の事業中区間の早期完成と未整備区間の早期事業化を図ること

### 2 主要な幹線道路の特定広域道路への位置付け及び重要物流道路指定と重点支援

地域高規格道路 伊那木曾連絡道路・松本糸魚川連絡道路・上信自動車道など、事業中・計画中の主要な幹線道路を特定広域道路に位置付けた上で、重要物流道路に指定し、重点支援を行うこと。特に、伊那木曾連絡道路の姥神峠道路（延伸）区間について、早期の新規事業採択を行うこと。また、上信自動車道は権限代行により整備すること

現在策定中の「新たな広域道路交通計画」において、松本佐久連絡道路（仮称）、上田諏訪連絡道路（仮称）を特定広域道路に位置づけること

### 3 国道・県道・市町村道の整備推進

国道18・19・20・153・158号の直轄道路事業を着実に進めるとともに、県が実施する松本糸魚川連絡道路や国道143号青木峠バイパス、木曾川右岸道路などの整備推進のために必要な予算を確保すること。また、国道153号を指定区間に編入すること

### 4 「スーパー・メガリージョン構想」の実現に向けた国土政策の展開

リニア中央新幹線関連事業及び中間駅を核とした地域づくりなどの取組を積極的に支援すること

### 5 リニア関連基盤整備事業の国重点施策への位置づけと市町村への財政措置

リニア中央新幹線に関連する道路などの基盤整備について、十分な予算配分や地方負担に対する財政支援を講じること。また、リニアの早期整備に向けて、建設工事に伴い市町村が行う住民との調整や独自の施策に対する財政措置を講じること